

あきる野民報

発行責任者/松平重幸 〒197-0826牛沼243-9

TEL&FAX 558-0718

住民の利益をまもり、「住民こそ主人公」のあきる野市政実現をめざして！

2010.2.28 No.527 (毎月2回発行)

日本共産党あきる野市委員会は次の見解を発表しました。



網代の高台より撮影

感じませんか？

あきる野市でも政治の変化が…

農業・林業関係者と懇談

昨年、総選挙で政権交代という歴史的な出来事が起こり、今、政治の世界に変化が起こっています。

農業、林業、医師会など、これまで自民党の強い支持基盤となっていた団体と日本共産党との交流が各地で行われています。

あきる野市でも昨年暮れに、日本共産党の小池晃参議院議員がファーマーズセンターを訪れ、施設の運営委員やセンター長、農業委員の方など、農業関係者と約2時間にわたり懇談しました。

参加者から、会社の社長が替わっても相続税はかからないのに…、農業者にも相

続税を猶予してほしい。食料自給率は100%を目指すべき、小池さんはテレビで見ると若い、家の近くに大きなボスターが張ってあるよなどと、初めての懇談とは思えないくらいいたくさんの意見や要望が出されました。終始なごやかな雰囲気であつという間に2時間が過ぎてしまいました。

同日の出町の東京森林組合で小池晃さんらがお話しいました。

同じく昨年暮には、東京都森林組合長の小峰さんと小池晃さん、共産党市議らが林業の抱える問題などを話し合いました。



ファーマーズセンターで



東京都森林組合で

会場いっぱいの参加者が 日本共産党新春演説会



たばた あずみ

わが家のこどもたちは、母さんの失敗がだいすき。台所で大きな音がすれば、たちまち飛んで来て「どうしたのどうしたの!」。「あ、忘れた」なんて言おうものなら「なにに、なににわすれたの!」…そんなに喜んでくれるな。

空気を入れた際に、自転車のタイヤキャップを失くしたわたしに、むすこが「へー、母さんでもしっぱいするんだねえ」。おとなを失敗しないイキモノだと思うらしいです。

おとなになったって、減るのは転ぶ回数くらい。失敗ぐらいますとも、連日失敗まくりですよ。おとななんて、たいしたものじゃないんですけど、ねえ。

(10.2.28)

連絡先は☎550-6674

また、2月7日、秋川ふれあいセンターで日本共産党の小池晃参議院議員を招いて日本共産党新春大演説会を開催しました。

当日は、朝から強風が吹き荒れる中、小池晃さんの話を直接聞いてみたいと、演説会場はたくさんの方でいっぱいになりました。

自殺者が出ている問題や、エコの問題なども話してほしかった。年配の方からは「小池さんの話はとても面白く、時間がとても短く感じた」などの感想が寄せられました。

初めての
方が多くて…

ほかに町内会、自治会の会長さん、農業関係の役員、子育て中の若いお母さんなど共産党の演説会に初めて参加したという方も多く、こどもも政治の変化が起こっていることを感じる一日でした。

先日「あきる野民報」の読者からハガキが届きました。声を寄せてくれた方は五日市在住の方です▼ハガキの内容は、「高い水準の民報で、何時も楽しく読んでいくという、賛辞が書かれ、今後に期待する言葉に満ちた内容でした。編集の一員として、今までの苦労が吹き飛ばす嬉しいひと時です▼現在のスタイルの「あきる野民報」は二〇〇五年八月の発行が最初で、以後毎月二回発行を堅持してきました。編集委員は五人で、各分野のペナランが揃い、毎回知恵を出し合い、印刷も分担して発行しています▼しかし何よりもこの「あきる野民報」が発行できているのは、多くの方が編集部への要請に応え、記事・写真を寄せてくださっているから、何時も感謝をしています。

▼新しい情勢のもと、もっと親しめ、読まれる紙面づくりに、努力したいと思っております。多くの方のご批判・ご意見を待っています。(葉書・FAXでの投稿歓迎)宛先・FAX番号は一面題字中に (松)

野良望

※18歳未満の児童は無料です

西多摩母親大会

日時 2010年2月7日(日) 13:00～15:30

場所 青梅市民会館

オープニング「奥田川」

講演 山家 悠紀夫(やんべ ゆきお)

「政権が変へ家計が

ひとりぼっちの母親も

主催/西多摩

「西多摩母親大会」に参加して

野辺・渡辺照美さん

2月7日(日)の西多摩母親大会で経済学者の山家悠紀夫氏の話が聞ける、しかも会場は青梅市民会館で近い。そこで「あきる野新婦人の会」の仲間と参加した。会場は西多摩各地からの参加者でいっぱいでした。

話の内容は「日本経済の転換点に立ってくらし・経済はどうなるか」です。昨年総選挙で「構造改革」路線が否定され、日本の社会・経済は、戦後第二の出発点に立った。

そこで「新しい日本」のビジョンとして

- ① 週40時間労働で暮らせる社会に。
 - ② 社会保障制度を西欧並の水準に。
- をかかげ、そのための財源は、当面、政府の貯蓄の取り崩しと借金でよいと話された。

私は「今以上、政府が国債発行で借金すると子や孫の代にツケを残す」と思っていたが、山家氏の資料を駆使しての話に、納得し、期待どおりの話でした。

- 消費増税増税反対!
- 労働者派遣法抜本改正を!
- 後期高齢者医療制度は廃止せよ!

3.22 西多摩大集会

3月22日(月・休日) 13:00開場
井の頭公園・西園 集会後デモ

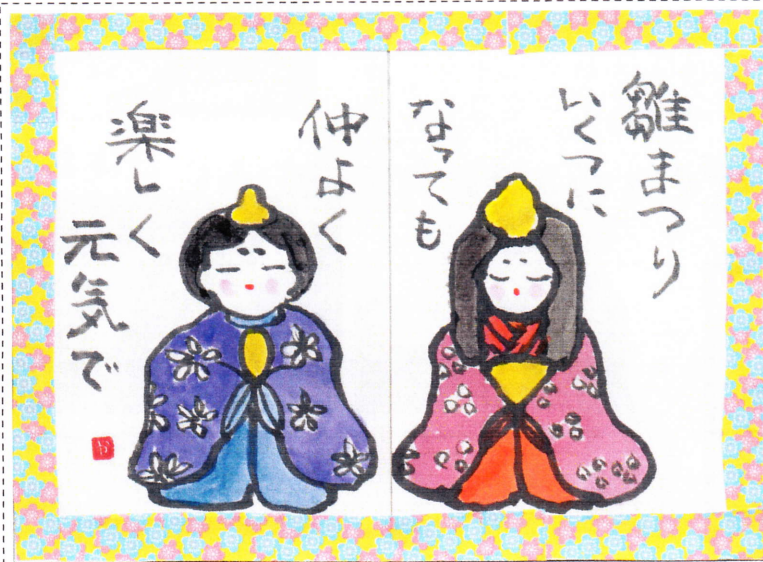
みんなこぞって参加しましょう

- 医療保険制度「一元化」反対
 - 国保料値上げ反対
 - 公契約条例を実現しよう
 - だれでも時給千円以上に
 - なくそう官製ワーキングプア
 - 学校現場に働くルールを
- 主催=3.22集会実行委員会

川柳

トヨタさん内部留保はりコールせず
朝青龍身からでた鎗年貢どき
ピラ配り冬の駅頭陽が恋し
わが仲間大寒ついで駅に立つ

蕎麦湯 蕎麦湯
松籟坊 松籟坊



絵手紙/瀬川和子さん・牛沼在住

後援会 便り

五日市後援会が つぎに バラの接木教室

所=山田・大和田バラ園
時=3月7日(日) 10:00~
参加費=1,000円(珈琲・ケーキ付)



バラは「平和の花」です。グリーンアドバイザーの大和田宏次さんが親切に指導してくれます。

あなたも参加して見ませんか

問い合わせ=595-0120(大和田まで)

歴史探訪

第107回

地名考・戸倉 ④

「(前回より続く)五ヶ村とは戸倉元村・西戸倉村・坂下村・星竹村・益堀谷村である。昔の村はもともと大きく養沢村・乙津村も含まれていたそうである。このような広い村なので、昔の水帳は十二冊に分けていたが、寛文七年(一六六七)の検地の時に西戸倉の地を分けて乙津村とし、星竹村の地を養沢村としたという。これによって戸倉村に関する水帳は六冊となった。

村の土地は当然高低があり、北にある秋川までは山が高く険しい。西南にある益堀の谷は東南へ緩やかに下る地勢となつて、民家三七軒が所々に散在している。境とされている四村の内三村が東側にあり、小和田村・入野村は嶺を境とし小中野村の境は秋川。西は沢を境として乙津村である。南は山入村・川口村(八王子)の二村が嶺を境としている。北は低く長く続く嶺を所々に越えて養沢村である。東西・南北共におおよそ八キロである。水田が星竹の地に僅かにあるが、陸田に比べると十分の程度で土性は星竹だけが真土、その他はみんな細土である。水害や旱魃の心配はないという。産業は男は耕作の他、材木を切つて筏にし江戸へ出す仕事をしている。女は紡織を仕事にし、織り様は八丈縞に習い八丈と呼んでいる。また養蚕も盛んであり、益堀谷では炭を焼く人も多い。(後略)(この項終り)

草花・木崎尚治



戸倉城山の遠景(五日市町史より)

「(前回より続く)五ヶ村とは戸倉元村・西戸倉村・坂下村・星竹村・益堀谷村である。昔の村はもともと大きく養沢村・乙津村も含まれていたそうである。このような広い村なので、昔の水帳は十二冊に分けていたが、寛文七年(一六六七)の検地の時に西戸倉の地を分けて乙津村とし、星竹村の地を養沢村としたという。これによって戸倉村に関する水帳は六冊となった。

俳句

(季語)「竜の玉」竜の髭の実を云います。山野や林に自生しますが、庭園にも植えられています。夏に花を咲かせ、冬に熟して碧い実となり、竜の玉となります。

山住みの朝の一步へ竜の玉 (かほる)

幾万の椿の香り島踊 (勝代)

雪解の雫の庇鳥の声 (静子)

裏山に春告げ草の香りかな (るり子)

睦月尽けんか別れの友遊けり (照代)

長湯して冬の露天の水えくぼ (和恵)

魚拓彩つて一尺五寸春来る (つや)

地球儀を廻して地震の国の春 (富)

城跡の古井戸へ梅零れけり (淑子)

天地に鬼の泣く声節分会 (秀治)